

波照間島のカラスは何者か？

山崎 剛史（財団法人 山階鳥類研究所）

波照間島は沖縄県南部の八重山諸島に含まれる小島で、西表島から南へ約20km、サンゴ礁の海の中に浮かんでいる。面積は12.8km²、周囲は14.8km、最高標高はわずか59.5mにすぎない。島の大部分はサトウキビ畑と牧場が占め、残りは集落と森林からなっている。

この島には、琉球列島の他の低島と同じく、キジバト、ヒヨドリ、セッカ、メジロ、スズメなどの鳥類が生息し、シロガシラも普通に見られる。しかし、島の鳥の中で何と言ってもその数の多さで目立っているのはカラスである。波照間島のカラスは、キビ畑の昆虫類、牧場の飼料、人の出す生ゴミなどで生計を立てているらしい。

波照間島のカラスは、西表島や石垣島など、八重山諸島の他の島々のものと同じで、オサハシブトガラス *Corvus macrorhynchos osai* だと考えられている（OSJ 2000）。オサハシブトガラスは数あるハシブトガラスの亜種の中でも著しく小型化していることで有名だが、最近私は複数の情報筋から、「野外で見ているかぎり、波照間島のカラスは西表島や石垣島のものと比べて明らかに大きい」という話を聞いた。

今回私は、有害鳥獣駆除等によって波照間島・西表島・石垣島で捕獲されたカラスの標本70個体を調査する機会を得た。この発表では、形態学的手法を用いて波照間島のカラスの正体に迫り、その分類学的位置づけを見直したい。